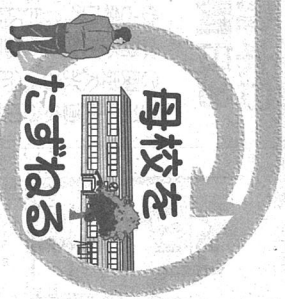


女子参加の体育祭に熱狂



落語家 三遊亭彩大さん 1989年度卒



男子校である埼玉県立浦和高校には、男らだけの環境も、女子を巡るイベントも足りない。「いまだに男子校をこじらせ引きずっている」と評する落語家、三遊亭彩大さん(44)は1899年度卒に、ほろ苦い青春の日々を語った。

【山川智士】

高健児が負けるわけがない(生)ぞだー」

入学式のオリエンテーションで、応援団が登壇しました。機の高い学芸に、先のどっかた華艇の独特の風貌。かこいひと思入部しました。でも、見た目の憧れだけで入ったので、他人を応援することか面白くは思えず、2学期にはやめてしまいました。

応援団は全校集客系野球の応援席などで「学生注目、略して「学生注目、かやっています。生徒を鼓舞するための演説です。

(応援団)「学生注目」

(生徒)「何だ」

(応)「みる、敵応援席には女がいる(生)ぞだー」

うだー」

(応)「うっともろやましなひ(生)ぞだー」

だー」

(応)「共学校にわか浦

男子校である埼玉県立浦和高校には、男らだけの環境も、女子を巡るイベントも足りない。「いまだに男子校をこじらせ引きずっている」と評する落語家、三遊亭彩大さん(44)は1899年度卒に、ほろ苦い青春の日々を語った。

7 県立浦和高校

「名物おぼちゃん」慕い



浦和高校の生徒や卒業生から慕われ続ける「仙龍」の伊藤さんが、店内は運動部のB会や生徒会などからの感謝でいっぱいだったと語り、浦和区のお店です。

OBも愛する食堂

を渡るんですか、着地する時に女の子の制服のスカートがふわっとなった時、見ているやつが一斉に叫ぶ。あの興奮した声は、いままも覚えています。あれはきっと、好きの人には分らないので、中には好きさぬみたい。中では好きさぬみたい。服装のやつもいろいろなんです。こいつ、母さんへの借りたいななど。服を賣りてくれる友達もいろいろなんです。

運動部走では一本橋と、魅力にはほまゝ、三遊亭伊丈師匠に男子人しませ先導して、女の子が一本橋

現在は一メニュー杯450円。定食のご飯やおかずは、普通盛りが一般的なお店の大盛り以上ある。経営は決して楽でないというが、「生徒や卒業生の成長が楽しみ。もっけは考えない」と笑う。普通男の男性客は「店員さんやご自身のよう。みんなが集まるのはほわちゃんの人柄」と話す。それを裏付けるのが、店內に所狭しと飾られた同校関係の感謝状だ。

各界のリporterを輩出し続けてきた。浦和高校。伊藤さんが店を片断を言うのは「勉強が中心の生徒に、コミュニケーションの大切さを知ってもらいたい」だ。

三遊亭彩大さんが一時は所属した「浦和通商」の扱いがあり、同校から応援団も代々普通なのが、浦和高校は100校ほどの距離だ。店切り伊藤さん分定年子の場所にある食堂盛りするのは、名物おぼちゃん。伊藤さん(54)。店切りは「懐かしい味」と愛され続けている。1959年。店切りは「代金借りてくる」(本当は700円)、「いづこにキエ」(ずこにキエ)と、18北浦和駅から北東方向に続く